

数 学

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	数学 701・801・901	B 5 846	令和2年
4	大日本図書	大日本◆	数学 702・802・902	B 5 876	
11	学校図書	学 図◆	数学 703・803・903	B 5 896	
17	教育出版	教 出◆	数学 704・804・904	B 5 918	
61	新興出版社 啓林館	啓林館◆	数学 705・805・905	B 5 920	
104	数研出版	数 研◆	数学 706・707・806 807・906・907	B 5 1,036	
116	日本文教出版	日 文◆	数学 708・808・908	B 5 874	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

校 種		聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校
観点	生徒の実態	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が、補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が、継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。
	1 障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	①視覚的な方法等を活用して、作業や体験等の学習活動が工夫できるもの。	①上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ②生活に結び付いた学習活動が示されているもの。
	2 障害への配慮を要する内容等について	①言葉や音を聞き取る活動があり、作業や体験等の学習活動に困難が想定されるもの。	①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他	①聴覚の障害を補えるように、写真、図表等で視覚的に説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②写真、図表等で視覚的に説明されているもの。

中学部 数学(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	大日本	学図
内容	四領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のページ数	628	660	689
	「例、例題」「問、問題(小問)」の問題数	4159	5360	5033
	日常の事象や社会の事象を扱っている箇所数	83	91	87
	既習事項を再度取り上げている箇所数	34	35	40
	電卓やコンピュータ、情報通信ネットワークを扱っている箇所数	36	34	54
	発展的な内容を扱っている箇所数	12	20	25
	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①視覚的な方法等を活用して、作業や体験等の学習活動が工夫できるもの。	30箇所 ①3年「円周角の定理」では、付録の「カメラの模型」を使って、黒板の両端が入るように撮影する位置を見付ける活動を取り上げている。(P167)	25箇所 ①2年「確率」では、実際にさいころを投げて出た目を記録し、相対度数を求める活動を取り上げている。(P182-183)	23箇所 ①1年「平面図形」では、定規やコンパスを使って、地図から宝物の隠し場所を見付ける活動を取り上げている。(P166-167)
2 聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、作業や体験等の学習活動に困難が想定されるもの。	1箇所 ①2年「数学の自由研究」では、かけ声をきいて左右の硬貨の数を当てるマジックがあり、取り扱う際に配慮が必要である。(P203)	2箇所 ①1年「正負の数、負の数の利用」では、海外の友達に電話をかける時間を考える活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P64)	0箇所 ①該当なし	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	10ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 31文字×25行 3年最後 28文字×26行	1年最初 32文字×26行 3年最後 39文字×27行	1年 34文字×25行 3年 34文字×25行
	欄外の文字の大きさ	7.5ポイント	8ポイント	8ポイント
	ふりがな	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図表等で視覚的に説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	①1年「方程式とその解」では、等式の性質を、重りとつり合った天びんの図で示している。(P94) ②3年巻末に、「3年間のふり返し」として、各学年の既習事項を示している。(P276-281)	①1年「関係を表す式」では、不等式の左辺と右辺の大小関係を天びんの図で説明している。(P95) ②全学年、全単元において重要事項を赤色の枠囲みで示している。(1年P25など)	①3年「関数 $Y=AX^2$ 」では、自動車が停止するまでに進む距離を、ブレーキを踏んでから停止するまでのイラストで説明している。(P133) ②各単元において、公式などを「重要」「定理」と記された枠囲みで示している。(3年P147など)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり

中学部 数学(聴覚障害特別支援学校)

発行者		教出	啓林館	数研
内容	四領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のページ数	681	611	646
	「例、例題」「問、問題(小問)」の問題数	4708	4857	3728
	日常の事象や社会の事象を扱っている箇所数	84	79	69
	既習事項を再度取り上げている箇所数	123	52	59
	電卓やコンピュータ、情報通信ネットワークを扱っている箇所数	27	38	12
	発展的な内容を扱っている箇所数	22	11	17
	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①視覚的な方法等を活用して、作業や体験等の学習活動が工夫できるもの。	31箇所 ①3年「平方根の活用」では、紙の大きさの特徴を調べるために、教科書の長い辺と短い辺を定規で測る活動を取り上げている。(P68)	21箇所 ①1年「比例、反比例の利用」では、反比例の関係を利用したモビール作りの活動を取り上げている。(P141)	17箇所 ①1年「空間図形」では、地図上にある建物を、立体の特徴に注目してグループ分けする活動を取り上げている。(P188)
2 聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、作業や体験等の学習活動に困難が想定されるもの。	1箇所 ①1年「文字を使った式」では、雷が光ってから3秒後に音が聞こえたと仮定して取り組む課題があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P80)	1箇所 ①2年「一次関数」では、雷や花火は、光を見てしばらくしてから音が聞こえてくることを想起する活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P62)	1箇所 ①1年「文字と式」では、稲光が見えてから、雷鳴が聞こえ、落雷した地点までの距離を計算する活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P76)	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	10.5ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年 33文字×25行 3年 33文字×28行	1年最初 28文字×25行 3年最後 29文字×28行	1年最初 24文字×24行 3年最後 32文字×21行
	欄外の文字の大きさ	7.5ポイント	9.5ポイント	9.5ポイント
	ふりがな	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図表等で視覚的に説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	①2年「一次関数の活用」では、スロープの勾配について、説明を補う図と写真を示している。(P96) ②各章末に学習した内容を振り返る「学習のまとめ」を示している。(1年P21など)	①3年「関数 $Y=AX^2$ のグラフ」では、放物線を描くボールの様子が、動画で見られるように、タブレット端末等で読みとるための、二次元コードを示している。(P100) ②全単元で、公式や性質、定理等が太い色付きの枠囲みで示している。(1年P18など)	①全ての章で、教科書の問題等をタブレット端末等で回答できるよう、章の始めに二次元コードを示している。(1年P15など) ②各学年の巻末に、これまでの学習内容のまとめを示している。(3年P284など)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	なし	なし

中学部 数学(聴覚障害特別支援学校)

発行者		日文
内容	四領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のページ数	630
	「例、例題」「問、問題(小問)」の問題数	4732
	日常の事象や社会の事象を扱っている箇所数	63
	既習事項を再度取り上げている箇所数	68
	電卓やコンピュータ、情報通信ネットワークを扱っている箇所数	33
	発展的な内容を扱っている箇所数	13
	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	18箇所 ①1年「正の数と負の数」では、身のまわりで、「+、-」を使って表されている数量を探す活動を取り上げている。(P23)
	2 聴覚障害への配慮を要する内容等について	2箇所 ①2年「数学研究室」では、声の回数から数を当てる活動があり、取り扱い際に配慮が必要である。(P198)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 28文字×23行 3年最後 33文字×27行
	欄外の文字の大きさ	9.5ポイント
	ふりがな	初出のみふりがながある
	障害の状態に応じた事項、その他	①3年「因数分解」では、因数分解の方法を言葉、矢印、表により色分けして示している。(P28) ②各章冒頭に、導入となる活動や身近な問題を見開きで示している。(1年P99など)
参考	防災や自然災害の扱い	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり

発行者		東書	大日本	学図
内容	四領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のページ数	628	660	689
	「例、例題」「問、問題(小問)」の問題数	4159	5360	5033
	日常の事象や社会の事象を扱っている箇所数	83	91	87
	既習事項を再度取り上げている箇所数	34	35	40
	電卓やコンピュータ、情報通信ネットワークを扱っている箇所数	36	34	54
	発展的な内容を扱っている箇所数	12	20	25
内容	1 肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	160箇所	189箇所	141箇所
	①上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ②生活に結び付いた学習活動が示されているもの。	①3年「関数 $Y=AX^2$ の性質と調べ方」では、関数のグラフを描く活動があるが、コンピュータの作図ソフトを使って、工夫することができる。(P104) ②2年「四分位範囲と箱ひげ図」では、レシートから情報を読みとり、買い物傾向を分析する活動がある。(P187)	①3年「標本調査」では、容器の中からビーズを取り出して、母集団の数量を推定する活動があるが、代替の手立てを工夫することができる。(P227) ②3年「平方根の利用」では、コピー機で拡大や縮小する際の倍率表示により、平方根について考える活動がある。(P69)	①1年「データの活用」では、ヒストグラムと度数折れ線を描く活動があるが、コンピュータの表計算ソフトを使うなどの工夫をすることができる。(P259) ②2年「さらなる数学へ」では、時計の長針と短針の動き方に関する問題を作る活動を示している。(P225)
内容	2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について	15箇所	12箇所	14箇所
	①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	①1年「いろいろな立体」では、付録の厚紙をミシン目で切り離して立体を作る活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P191)	①1年「図形の性質と利用」では、ストローと糸で正八面体の飾りを作る活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P236)	①2年「いろいろな角と多角形」では、三角定規を2枚使用して平行線を引く活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P112)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	10ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 31文字×25行 3年最後 28文字×26行	1年最初 32文字×26行 3年最後 39文字×27行	1年 34文字×25行 3年 34文字×25行
	欄外の文字の大きさ	7.5ポイント	8ポイント	8ポイント
	ふりがな	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある
	障害の状態に応じた事項、その他	①3年巻末に、「3年間のふり返り」として、各学年の既習事項が見開きで示している。(P276) ②1年「正負の数」では、身のまわりで正負の数が使われている例を、写真で具体的に示している。(P26)	①各学年の巻末に、切り取ると冊子状になる「学習のまとめ」が付いている。(1年付録1-4など) ②2年「一次関数」では、一次関数のグラフの傾きを、エスカレーターを横から見たイラストを使って説明している。(P75)	①1年「比例と反比例」では、新しい学習に入る前に、これまで学んだことを振り返る「ふりかえり」のページがある。(P127) ②3年「関数 $Y=AX^2$ の値の変化」では、物が落下する速さの変化を、ボールが落ちる様子の連続写真で示している。(P117)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり

中学部 数学(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		教出	啓林館	数研
内容	四領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のページ数	681	611	646
	「例、例題」「問、問題(小問)」の問題数	4708	4857	3728
	日常の事象や社会の事象を扱っている箇所数	84	79	69
	既習事項を再度取り上げている箇所数	123	52	59
	電卓やコンピュータ、情報通信ネットワークを扱っている箇所数	27	38	12
	発展的な内容を扱っている箇所数	22	11	17
内容	1 肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	162箇所	159箇所	117箇所
	①上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ②生活に結び付いた学習活動が示されているもの。	①2年「確率」では、さいころを1個投げて、1から6の目が出る回数を調べる活動があるが、代替の手立てを工夫することができる。(P183) ②3年「相似な図形」では、コピー機やタブレット端末を使って画像を拡大する活動を示している。(P136)	①1年巻末の「学びをいかそう」では、模様をつくる活動があるが、コンピュータのプログラミングを活用し、工夫することができる。(巻末P51-52) ②2年「連立方程式の利用」では、車いすバスケットボールの試合結果の記事から、2点シュートと3点シュートの本数を考える活動を示している。(P47)	①3年「母集団と標本」では、大きい母集団から標本を抽出する活動があるが、コンピュータの利用で、工夫することができる。(P222) ②1年「比例と反比例の利用」では、地震波の進む距離と時間をグラフで示し、緊急地震速報のしくみを説明している。(P153)
内容	2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について	13箇所	9箇所	12箇所
	①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	①1年「円とおうぎ形の計量」では、紙にコンパスで円を描いて切り抜き、重なるように2つに折る活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P194)	①1年「立体と空間図形」では、2本の鉛筆を持ち、いろいろな傾きや方向に動かすことで、位置関係を考える活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P191)	①2年「平行線と角」では、同位角や錯角の変化を調べるために、1本の棒に、2本の棒を交差させてピンで留めた模型のうち1本だけを動かす活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P109)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	10.5ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年 33文字×25行 3年 33文字×28行	1年最初 28文字×25行 3年最後 29文字×28行	1年最初 24文字×24行 3年最後 32文字×21行
	欄外の文字の大きさ	7.5ポイント	9.5ポイント	9.5ポイント
	ふりがな	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある	初出のみふりがながある
	障害の状態に応じた事項、その他	①1年「整数の性質」では、章末に、まとめの問題がある。(P21) ②2年「1次関数」では、一次関数の表、式、グラフを横並びにし、対応する項目を同色で表すことで、それぞれの関係を分かりやすく示している。(P79)	①3年「関数とグラフ」では、単元の公式や定理、性質などを白抜きの文字と色付きの太い枠囲みで強調して示している。(P101) ②2年「平行と合同」では、内角に着目した三角形の分類を図で示している。(P103)	①3年「中学3年間のまとめ」では、3年の学習内容を、1年、2年の学習内容と合わせて、まとめて示している。(P284-291) ②2年「平行線と角」では、分度器のイラストで鈍角、直角、鋭角の大きさを示している。(P115)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	なし	なし

発行者		日文
内容	四領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のページ数	630
	「例、例題」「問、問題(小問)」の問題数	4732
	日常の事象や社会の事象を扱っている箇所数	63
	既習事項を再度取り上げている箇所数	68
	電卓やコンピュータ、情報通信ネットワークを扱っている箇所数	33
	発展的な内容を扱っている箇所数	13
	1 肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①上肢の操作を伴うものであっても、教材や補助的手段等を活用して、学習活動が工夫できるもの。 ②生活に結び付いた学習活動が示されているもの。	110箇所 ①1年「正の数と負の数」では、温度計の図に最高気温と最低気温を色で示す活動があるが、代替の手立てが工夫できる。(P15) ②3年「関数の活用」では、自動車がブレーキを踏んでから停止するまでに進む距離を予想する活動を示している。(P113)
2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	11箇所 ①2年「三角形と四角形」では、二等辺三角形を作図した紙を折って角が重なることを確かめる活動が示されており、取り扱う際に配慮が必要である。(P133)	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 28文字×23行 3年最後 33文字×27行
	欄外の文字の大きさ	9.5ポイント
	ふりがな	初出のみふりがながある
	障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②写真、図表等で視覚的に説明されているもの。	①各学年の巻末に、当該学年で学習した図形についての確認事項を示している。(巻末) ②3年「相似な図形」では、合同な図形と相似な図形の関係性を図で示している。(P130)
参考	防災や自然災害の扱い	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり

